

「雨のいいところ」

皆さんは、雨が好きですか。雨が降ってきて、傘をさすのは面倒だ。服や持っている物が濡れる。だから私は雨が嫌いだと思っています。私たちが住んでいる地球は、「水の惑星」とも呼ばれています。それほどよく雨が降るし、水が蓄えられているのです。ですが、その水だって、いつなくなるかはわかりません。私は、少し前に、雨がどんな働きをしているのかをまとめた本を読みました。そこには、「雨がどのようなようにして地球に役立つているか」や、「雨が降らなくなってしまうか」、どんな不自由なことが起こるか」などが載っていました。雨について、そんなに考えたことがなかった私ですが、この本を読むと少しだけわかつたような気がしました。そのことを、少し説明しようと思います。そのまず、雨はどうして降るのかというところ

から、本は始まりました。確かに雨は、一か月に何回か降るので、どんなふうになっているんだらうと気になりました。読んでいくと、その理由は、水のある海や川、池などが深く関係していました。海の水が、太陽に照らされて蒸発し、水蒸気が雲になって世界各地を回っていく、やがて雨が降る。それを繰り返しているそうです。その循環が、私たちの生活を助けてくれています。その循環が、私たちの生活では、私たちの生活に不可欠な雨が降らなかつたことによつてできた砂漠地帯では、なぜ雨が消えてしまったのでしょうか。その訳は、主に二つあって、寒流が吹いて、水温が低く蒸発が少ないことや、山脈などの大きな障害物にぶつかる時に、雨を降らせてしまつて砂漠まで届かないことがあるからでした。

天理市立福住中学校 二年

永井 咲良

これまで、自然に対する雨のいいところを見てきました。私は、自分なりに雨のいいところを探してみることになりました。考えてみた結果、二つ思い浮かびました。

一つ目は、雨の音を聞くと癒やしになるということです。忙しく毎日を過ごしていても静かな場所で雨音を聞くと心が落ち着くのではないかと思います。皆さんも耳をすまして、聞いてみてはどうでしょうか。

もう一つは、雨の日には差せない傘や、長靴を履いたりできるという楽しさがあることだと思いました。私も小さい時に新しい傘を買ってもらって雨が降る日を楽しみにしていたことを思い出しました。雨が降った日はとても喜んでいたそうです。こんな事を考えていると、雨は嫌なだけのものではないように思えてきました。私が見つけた雨のいいところはきつと、楽しい気分になって、自然と心が弾むようになれるところだと思います。初めは嫌なところしかなくて嫌だと思っていた雨も本を読んだり、自分なりの考えを探してみたことで、雨に対する考え方が変わりました。この作文の初めを読んで、「雨は嫌

いだな。」と思った人はぜひいいところを探してみてください。ほしいなと思います。